

<一人も失わない>

ヨハネ18：1～11



アルフォンス・デーケン

死生学の先駆者 上智大学名誉教授でカトリック司祭 著書「より良き死のために」

イエスさまの死は目前！

ゲッセマネの園でイエスさまを捕まえにやって来た大祭司やローマ兵。
先頭にはイスカリオテ・ユダ。

イエスさま 「だれを捜すのか」と彼らに言われた。

一隊の兵士 「ナザレ人イエスを」と答えた。

イエスさま 「それはわたしです」と言われた。

エゴーエイミー （聖なる神を表す言葉）

ここにいるのは「聖なる神である！」という、決して動じないイエスさまの主張。

- ◆ 誰を捜しに来たのか。確認するかのように2度も同じ質問を繰り返した理由は、敵の関心が、御自分にだけ向けられている事を彼ら自身に印象づけるため。

イエスは答えられた。「それはわたしだと、あなたがたに言ったでしょう。

もしわたしを捜しているのなら、この人たちはこのままで去らせなさい。」 【8節】

◆恐怖で身震いするような状況で、イエスさまが一番に心にかけてことは、弟子達の安全と自由が保障される事。

どんな時にも絶対に変わる事のない、自己を忘れた忠実な愛！

良い牧者は羊のためにいのちを捨てる。 ヨハネ 10 : 11

イエスさまの十字架の死は、御自分のいのちに替えても羊を襲い、食い散らかそうとする悪魔から、救い出すための自発的な死。

だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしは、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威があります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。 ヨハネ 10 : 8

ペテロはイエスさまを守ろうと、慌てて過激な行動に出た。

シモン・ペテロは、剣を持っていたが、それを抜き、大祭司のしもべを撃ち、右の耳を切り落とした。そのしもべの名はマルコスであった。【10節】

ペテロの勇敢に見える行為は、神の救いの成就を阻むもの？！

剣をさやに収めなさい。父がわたしに下さった杯を、どうして飲まずにいられよう。【11節】

◆悪魔、サタンが画策する悪の力が完全に打ち破られる道はただ一つ。イエスキリストご自身が、神の「怒りの杯」を飲むことにあった。